

## 名鉄広見線(新可児駅～御嵩駅間) 平成25年度以降の財政支援期間及び支援額について

### ・基本的な考え方 (名鉄広見線(新可児駅～御嵩駅)活性化協議会)

広見線全線(新可児駅～御嵩駅間だけでなく犬山駅間まで)は、地域に必要な社会インフラであると位置づけ維持存続を基本とする

維持存続するため、引き続き財政支援を行う

財政支援期間については、次の理由により現行(3年間)よりも長期で考える

- ( 学生をはじめとする沿線住民が安心して選択し利用できる期間であるべき
- 単に維持存続するだけでなく、路線を活かすためのより良い方策を見出すための検討期間を確保するべき

活性化協議会の意見を集約し方針を決定。その方針に基づき名鉄と協議

### ・平成25年度以降の財政支援期間及び支援額(協議結果)

維持存続するため、引き続き**各年度1億円の財政支援**を行う

財政支援期間は、引き続き**3年間の期間**とする

3年後に改めて事業者側とその後の枠組みなどについて協議して行くものです。

ただし、各市町での予算編成等の議決を経て支援額及び支援期間の決定がされます。

# 平成25年度以降の名鉄広見線活性化協議会について



## 1) 名鉄広見線活性化計画(H22年度～H24年度間)活動の振り返り

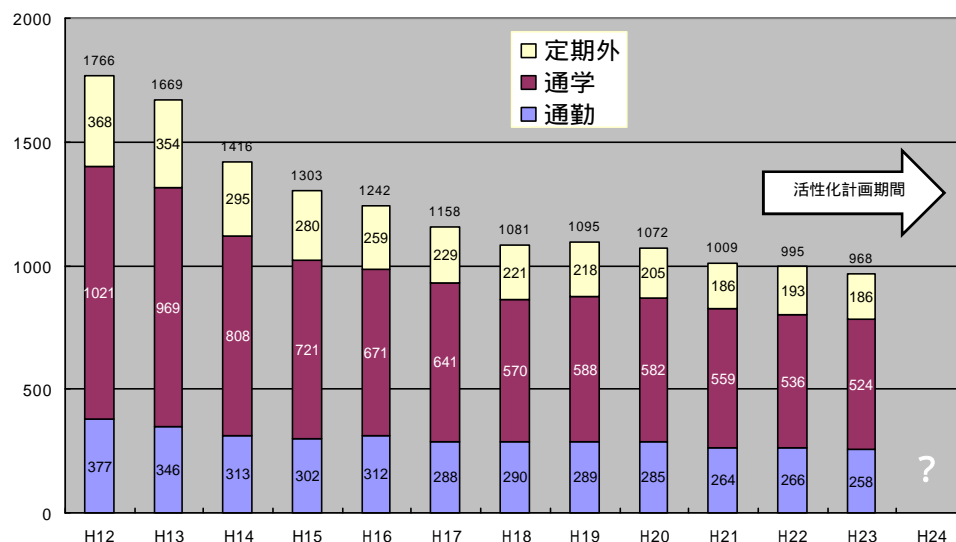
### 真に広見線を活かした活動をしてこれなかった3年間

名鉄広見線活性化計画では、利用者の減少に歯止めをかけ、利用者増加に転じる目標(平成24年度末利用者を111万1千人に)を掲げ、地域住民や事業者、行政が一体となって取り組んでいくものであった。

この3年間の活動は、補助メニューの新設(定期・回数券補助、団体利用補助等)などにより、一定の効果はあったと考えられる。しかし、沿線市町及び関係団体相互間の協力体制を十分に生かすことができず、イベント等においては広見線の利用増進につながる事業内容が少なかったこと。また、住民の交通行動変容を喚起するような周知や議論の場が少なく、住民を巻き込んだ維持存続運動へ発展してこなかったことが反省点として上げられる。

結果として、広見線利用者は平成22年度には年間利用者100万人を割り込み(99万5千人)、平成23年度には96万8千人、平成24年度も前年度値を割り込む見込みである。

広見線(新可児駅～御嵩駅間)の輸送人員の推移



【広見線活性化計画期間中  
(平成22年度～平成24年度間)の輸送人員】(単位:千人)

年 度		H22	H23	H24	前年比
輸送人員 (千人/年)	通 勤	266	258	221	85.6%
	通 学	536	524	443	84.5%
	定期外	193	186	154	82.9%
	合 計	995	968	818	84.5%

H22・H23は確定値  
H24は4-H25.1月までの累計値

## 2) 名鉄広見線活性化計画期間(H22～24年度)の検証

<目標>H21年度実績 1,009千人      H24年度目標 1,111千人(対21年度比110% +102千人)  
 <結果>H24年度推計 955千人(対H21年度比94.6% -54千人)  
 「通勤」、「定期外」は、H21年度の水準を維持。「通学」54千人減がそのまま全体の減に  
 「通勤」、「定期外」は増加に転じた年度がある一方、「通学」は一貫して減少

区分	H21		H22	H23	H24	対H21増減
通勤	264	目標	308	327	331	+67
		実績	266	258	推計264	±0
通学	559	目標	558	558	558	1
		実績	536	524	推計505	54
定期外	186	目標	216	221	222	+36
		実績	193	186	推計186	±0
全体	1,009	目標	1,082	1,106	1,111	+102
		実績	995	968	推計955	54

今後の方向性



**H24年度の利用者数を維持      今後3年間で下げ止まらなければ存続は厳しいと認識**  
**「通学」の下げ止めを図りつつ、「通勤」、「定期外」の増加により利用者数を維持**

「通勤」      公的機関(役所、学校等)を牽引役に徹底的に利用者増(単なる「呼びかけ」で終わらせない)  
 「通学」      新たな支援制度を創設し、電車離れを食い止め、呼び戻す(今後3年間の主戦場)  
 「定期外」      真に鉄道を利用するイベント等に限り手厚く支援

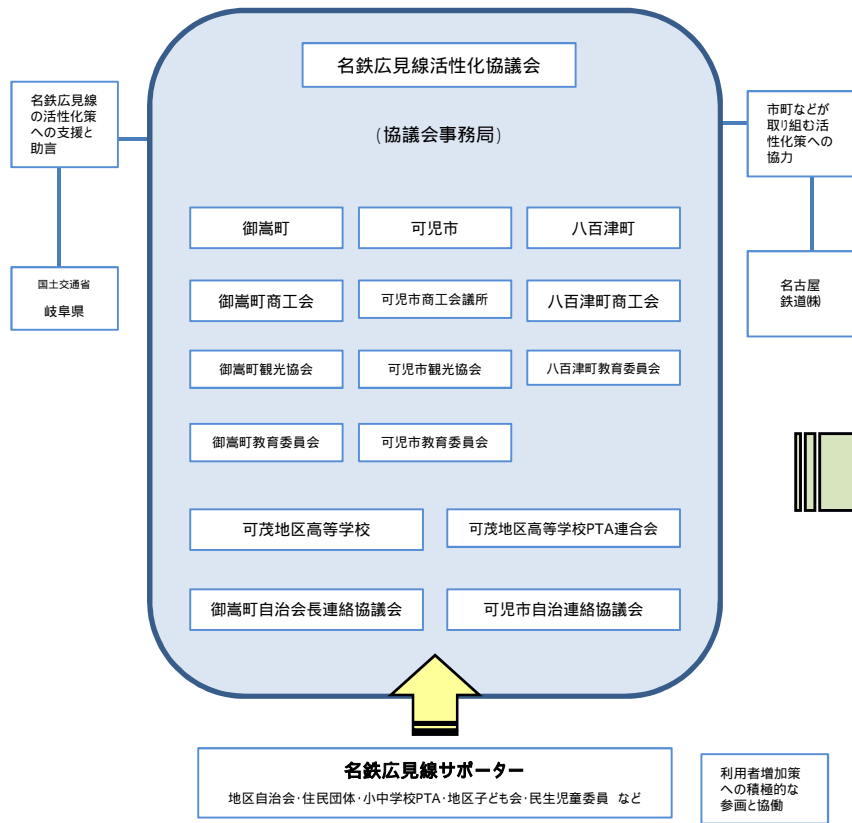
### 3) 活性化協議会組織の存続

今後も利用促進に向け、沿線市町(可児市、八百津町、御嵩町)と各種団体等で組織する活性化協議会での議論は必要なため当協議会を存続し、更なる連携を図るなかで広見線の活性化策を実行していくものとします。

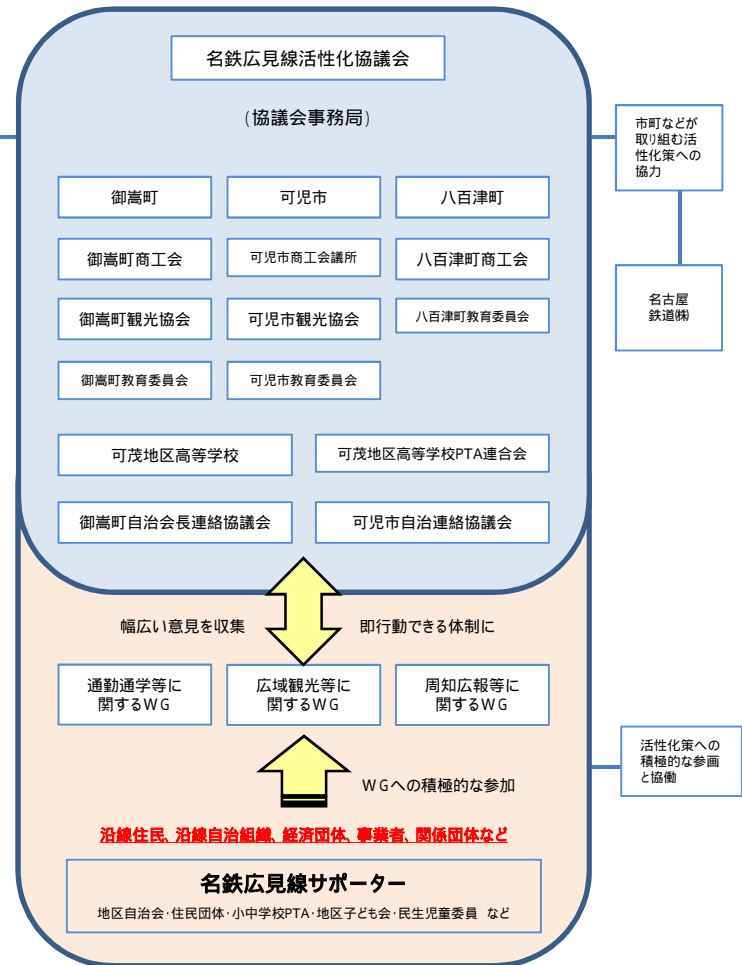
### 4) 活性化協議会の組織のあり方と活動体系 ~ WGで実務者が集い、即行動に移せる体制へ ~

平成25年度以降の広見線活性化協議会の組織は、協議会とは別に構成団体のほか各種団体や住民団体の実務者がWG(ワーキンググループ)などで幅広い意見交換や活動策を検討する組織とし、即行動に移せる体制を取って行くものとします。

【いままでの体制】



【平成25年度以降の体制】



住民、地域自治組織、経済団体、事業者、関係団体 など

沿線住民、沿線自治組織、経済団体、事業者、関係団体など

## 5)活動計画期間：平成25年度～平成27年度

平成27年度までの3か年を活動期間とし、その間の活動検証、利用者推移を検討した上で平成28年度以降の存廃について然るべき時期に判断をしていきます

## 6)活動計画の目標数値：平成24年度の利用者数を維持する

- ・利用者の減少に歯止めをかけるため、活性化協議会及び構成団体、沿線市町が一体となって連携施策を展開するなかで、平成24年度の利用者数を維持していくことを目標とします
- ・社会的要因により利用者の推移は左右されるため、毎年度検証を行っていきます

## 7)活動の具体的な取り組みについて

名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）活性化協議会活動の方向性

### 定期券利用者の確保

- （ 通勤定期利用者  
 通学定期利用者

### 定期外による集客

- （ 定期外利用者  
 沿線住民

### 情報発信の強化

- （ 広見線利用者  
 沿線住民

### 沿線住民との連携

- （ 広見線利用者  
 沿線住民

【具体的な内容】

沿線市町を含む公的機関職員が積極的に電車通勤を実施

補助制度の見直しと充実

沿線市町及び構成団体等が連携した広域的な取り組み（観光・イベント）

活性協事務局に加え、構成団体等からの積極的な情報発信

構成団体等の実務者レベルが集い協議の場としてWGを随時開催

沿線住民等と連携した協議会の運営（他団体との交流）

鉄道事業者との連携を密にし広見線の活性化に取り組む

・補助制度の見直し(例)

【通勤・通学定期】

定期券モニター制度の上限額拡充  
通学定期券購入者への補助新設  
事業所への電車通勤者報奨金制度新設

【定期外】

団体利用運賃補助(YAOバス含む)の継続  
回数券購入補助の継続  
各種団体イベント補助の拡充

・周知情報発信活動(例)

活性化ニュース(毎月)の発行継続  
活性協や構成団体HP等からの情報発信

・連携体制(WG=ワーキンググループ)の開催(例)

【通勤・通学等に関するWG】

公的機関職員及び通学生徒が積極的に電車通勤通学に取り組むため、沿線市町と教育関係団体等の実務者でWGを開催する

【広域観光等に関するWG】

広域的な観光・イベントを視野に事業を展開するため沿線市町と観光関係団体等の実務者でWGを開催する

【周知広報等に関するWG】

周知・情報発信を強化するため沿線市町と構成団体のほか、地元報道機関(CTKやFMららなど)とも連携しWGを開催する



合言葉は、**“乗って残そう広見線！”**